身近なニュース・情報、お寄せください

編集局報道部		022(211)1127	FAX 022(224)7947
【総支局】			
石巻	石巻市千石町	0225(96)6700	FAX 0225(21)1668
気仙沼	気仙沼市田中前４丁目	0226(22)6622	FAX 0226(23)6780
大崎	大崎市古川駅前大通	0229(22)0066	FAX 0229(22)0253
泉	仙台市泉区明通３丁目	022(373)6000	FAX 022(373)6015
多賀城	多賀城市中央３丁目	022(361)5180	FAX 022(361)5181
塩釜	塩釜市北浜１丁目	022(367)1331	FAX 022(367)1507
南三陸	南三陸町志津川沼田	0226(47)4733	FAX 0226(47)4755
登米	登米市迫町佐沼	0220(22)3172	FAX 0220(22)3440
若柳	栗原市若柳川南南大通	0228(32)5371	FAX 0228(32)2848
栗原	栗原市築館薬師	0228(22)3163	FAX 0228(22)1679
小牛田	美里町牛飼清水江	0229(33)2204	FAX 0229(33)3301
加美	加美町北町	0229(63)2115	FAX 0229(63)3597
岩沼	岩沼市館下２丁目	0223(22)2215	FAX 0223(22)2792
大河原	大河原町新東	0224(52)1173	FAX 0224(52)1182
白石	白石市鷹巣東４丁目	0224(25)2201	FAX 0224(25)2516
角田	角田市角田中島上	0224(62)1568	FAX 0224(62)0707
亘理	亘理町新町	0223(32)8681	FAX 0223(32)8682

読者相談室
月一金９:30～17:30
022(211)1447

配達問い合わせ
022(211)1302

あいにくの雨の中、訪れた人に笹かまなどを配るスタッフ

「笹かまの日」を市民にアピール
仙台でイベント

「笹かまの日」の7日夕方、仙台市青葉区の勾当台公園でPRイベントが開かれ、七夕に由来する記念日を市民に広くアピールした。

仙台、塩釜などの笹かま関連8社による実行委員会主催。サッカーJ1仙台のマスコットキャラクター「ベガッ太」も駆け付け、来場者に笹かまや記念品を手渡した。

七夕伝説にちなみ天体観測も楽しんでもらおうと、仙台市天文台の移動天文車「ベガ号」も参加したが、あいにくの雨で観測は中止。来場者はスタッフの説明を受け、天文車内部を見学した。

会場近くに住む会社員高木ゆかりさん(39)は「天体観測を楽しみにしていたので残念。でも、笹かまをお土産にもらえてうれしい」と喜んだ。

笹かまの日は、その呼び名が、七夕を飾る笹の葉にちなんでいることから、県蒲鉾（かまぼこ）組合連合会と紀文食品（東京）が日本記念日協会に申請し、2013年に制定された。

津波被害田で綿花栽培プロジェクト
挑戦の記録一冊に
「歴史を後世に伝えたい」

東日本大震災の津波被害田で綿花を栽培した人々の挑戦や思いを記録した書籍「東北コットンプロジェクト　綿と　東北と　わたしたちと」（タバブックス刊）が出版された。県内の栽培参加者は震災の風化防止を願い「この取り組みを知ってほしい」と呼び掛ける。

書籍は四六判、208ページ。写真入りで、プロジェクトの経緯が描かれている。年譜付き。

刊行された「東北コットンプロジェクト」

プロジェクトは、アパレル業界の社員らの「綿は塩害に強い」という一言をきっかけに、復興支援の一環で始まった。関係者が浸水田での綿花栽培に奔走。2011年6月、仙台市若林区荒浜地区の浸水田約1・2ヘクタールに初めて種をまいた。収穫された綿はタオルやシャツ、ジーンズなどに製品化されている。

一般市民やボランティアを巻き込み、現在はプロジェクトに80社以上が加わる。綿花は荒浜地区のほか、名取市や東松島市でも栽培されている。

最初に綿花栽培に挑んだ「仙台東部地域綿の花生産組合」（昨年3月解散）の活動も文中に登場。組合長を務めた美里町のイーストファームみやぎの赤坂芳則社長は「綿花など見たこともない、作り方も分からない、そうした中での出発だった」と振り返る。

赤坂氏は現在、東松島市大塩地区に東北コットン東松島農場をつくり、ボランティアを招き綿花を栽培する。「震災後、日本中から多くの人が集まり綿花の種をまいた。その歴史を本を通じて後世に伝えたい」と話す。

税別1600円。連絡先はタバブックス03(6796)2796。

尿血液の検査予約が不要に
登米市民病院

登米市迫町の登米市民病院（258床）は今月から、予約など事前の手続きを取らずに尿と血液の検査を受けられる「プチ健診」を始めた。市民らに気軽に健康状態を把握してもらう取り組みで、市外からの利用も受け付ける。

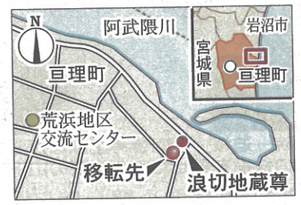
血液検査を中心に、血糖値やコレステロール、肝機能など九つのメニュー中から、受診者が希望する項目を選んで調べる。1項目500～1000円。指定する4項目をまとめて1000円で受けられる割引もある。

検査券を買い、申込書に必要事項を記入して提出すれば、検査は15分前後で済むという。1週間後をめどに結果を受診者に郵送する。

事業は、病気の早期発見、早期治療を進めた。布施孝院は病気をの所ではならないため いや付き添してほしい 受け付け前9時半か と午後2時の2回。20でも利用で

亘理・荒浜 津波で集落壊滅、ほこらも流失
浪切地蔵尊 新たな歩み

移転、存続が決まった浪切地蔵尊。津波で壊滅した集落跡は荒れ地になり、そばに拡幅予定の堤防が走る



東日本大震災で大きな被害が出た亘理町荒浜地区で、古くから住民に親しまれた「浪切（なみきり）地蔵尊」の存続が決まった。集落は壊滅し、敷地も阿武隈川の堤防拡幅用地に掛かったが、散り散りになった住民の要望に国や町が応え、近くに移転先を確保した。住民らは「地域の象徴が残った」と喜び、移転先での4年ぶりの夏祭り復活に思いをはせている。

浪切地蔵尊は江戸後期に建立された。阿武隈川沿いの荒浜4丁目、5丁目両行政区（現あぶくま区）の境に祭られ、海上安全や子どもの成長を願う象徴として周辺住民や漁業関係者らの信仰を集めた。以前は毎年8月23日に夏祭りが盛大に開かれていた。

浪切地蔵尊保存会の会長を務める高橋紘道さん(74)は「屋台がいっぱい出て、盆踊りやカラオケなどをみんなで楽しんだ」と懐かしむ。

震災の津波で両行政区の集落は壊滅。地蔵尊も一部が壊れ、祭っていたほこらも流失した。住民らは壊れて流された地蔵尊の部位を拾って戻し、仮設住宅や避難先から通って供養を続けた。そのさなか、震災の復旧工事で拡幅される堤防に地蔵尊の敷地が掛かることが明らかになった。

震災前に約60戸あった4丁目は4戸ほどに減り、5丁目は町の災害危険区域に指定された。「地蔵尊が消えれば地域も消える。なくすわけにいかない」。山元町に避難中の高橋さんらは危機感を募らせ、国や町に存続を要望。移転先として4丁目の宅地約330平方㍍を町が取得し、国が移転費を賄うことになった。

町用地対策課の担当者は「地域に強く根付いた民俗資料であり、後世に津波被害を伝える象徴にもなりうる」と話す。

今月中にも用地を取得し、移転作業を行う予定。高橋さんは「震災で休止していた夏祭りを盛大に開きたい。移転先などから多くの住民が集まってくれるとうれしい」と意気込む。

住民の要望実り移転・存続決定

4年ぶり夏祭りへ「象徴残った」

実演、アトリエ再現も
地元の漫画家安孫子さん企画展

来場者にイラストの説明をする柴田さん（左）

柴田町出身の漫画家安孫子三和さんの作品や原画などを紹介する「漫画家安孫子三和の世界展」が、同町のしばた郷土館で開かれている。

「みかん・絵日記」などで知られる柴田町在住の漫画家安孫子三和さんの作品や原画などを紹介する「漫画家安孫子三和の世界展」が、同町のしばた郷土館で開

構想段階の原画、再現もあり の様子を知

共同ス
起業家を

石巻市の巻復興支援は7日、起利用できるグスペース」駅前に開設大震災の被事業を創造整え、地域を図る。

ビル1階約50平方㍍テーブル、